



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月10日

東

上場会社名 アニコム ホールディングス株式会社 上場取引所
コード番号 8715 URL <https://www.anicom.co.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役（氏名） 小森 伸昭
問合せ先責任者（役職名） 経営企画部 部長（氏名） 櫻井 紀彦（TEL）03(5348)3911
半期報告書提出予定日 2025年11月13日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	36,400	10.6	2,098	△33.0	1,429	△34.4
2025年3月期中間期	32,903	10.3	3,130	20.3	2,180	24.1

（注）包括利益 2026年3月期中間期 1,881百万円（△3.3%） 2025年3月期中間期 1,946百万円（35.0%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	19.20	—
2025年3月期中間期	27.68	—

（参考）のれん償却前経常利益（経常利益+のれん償却額）

2026年3月期中間期 2,227百万円 2025年3月期中間期 3,254百万円

のれん償却前中間純利益（親会社株主に帰属する中間純利益+のれん償却額）

2026年3月期中間期 1,558百万円 2025年3月期中間期 2,304百万円

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	74,673	28,311	38.1
2025年3月期	72,494	28,066	38.9

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 28,460百万円 2025年3月期 28,215百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	8.50	8.50
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	9.00	9.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	73,000	7.9	3,300	△33.2	2,100	△35.3	28.45

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	74,939,160株	2025年3月期	74,939,160株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	1,300,732株	2025年3月期	4,232株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	74,437,811株	2025年3月期中間期	78,755,121株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（業績予想の記述について）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]P. 5「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12
3. 補足情報	13
(1) 2026年3月期 第2四半期（中間期）損益状況	13
(2) 種目別保険料・保険金	14
(3) 有価証券関係	15
(4) ソルベンシー・マージン比率	16

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、海外経済の減速や物価上昇の影響を受けつつも、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。個人消費は物価高による抑制がみられたものの、賃上げの広がりやインバウンド需要が下支えとなり、設備投資も堅調に推移しました。一方で、輸出の伸び悩みや先行き不透明感が残るなど、景気の持ち直しの勢いは総じて緩やかなものとなりました。

このようななか、当社グループの中核子会社であるアニコム損害保険株式会社の重点施策と位置付けている「ペット保険の更なる収益力向上」に向け、堅調なペット飼育需要の継続に加え、販売チャネルの営業活動強化の様々な取組みや他社からの契約移管により、保有契約数は1,347,456件（前期末から59,533件の増加・同4.6%増）と、順調に増加しております。また、E/I損害率^{注1)}については、ペットの平均寿命の伸長やどうぶつ医療の高度化、インフレの影響による診療費の高止まりなどにより、62.6%と前年同期比で1.2pt上昇いたしました。既経過保険料ベース事業費率^{注2)}は、他社契約移管コストの発生によって、34.6%と前年同期比で2.5pt上昇いたしました。この結果、両者を合算したコンバインド・レシオ（既経過保険料ベース）は前年同期比で3.7pt上昇し97.2%となりました。

また、当社グループでは、引き続き第二期創業期の歩みを加速させる取組みを推進しております。あらゆるデータから、病気・ケガを分析し、「入って健康になる」予防型保険会社グループへ成長するため、新規事業の重点施策に対する取組みを、どうぶつのライフステージの川上から川下まで幅広く展開しております。川上での科学・技術・データに医療のサポートを加えたブリーディングやマッチングサイト運営を通じたブリーダー支援に加え、川中では「どうぶつ健活」によるどうぶつの健康チェックの普及、各検査をキーにした口腔・腸内ケア商材の開発・販売等の健康イノベーション事業の拡大を進めております。更に川下においては、どうぶつ医療における高度先進医療（手術支援ロボット、細胞治療、再生医療）を実用化し拡大を図るとともに、カルテ管理システム事業の拡大（予約システム等の機能の充実）等とあわせ、データのさらなる活用による予防法の開発、ペット関連事業の領域拡大を目指しております。

以上の結果、当社グループにおける当中間連結会計期間の業績は次のとおりとなりました。

保険引受収益31,674百万円（前年同期比10.0%増）、資産運用収益663百万円（同28.3%増）、新規事業等を含むその他経常収益4,063百万円（同12.9%増）を合計した経常収益は36,400百万円（同10.6%増）となりました。一方、保険引受費用22,291百万円（同11.8%増）、営業費及び一般管理費10,449百万円（同23.2%増）などを合計した経常費用は34,301百万円（同15.2%増）となりました。この結果、経常利益は2,098百万円（同33.0%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,429百万円（同34.4%減）となりました。

当社グループの事業セグメントは、「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、“損害保険事業（ペット保険）”、“ペット向けインターネットサービス事業”、“動物病院運営事業”、“健康イノベーション事業”及び“その他の事業”です。

セグメントの名称	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	対前年同期 増減(△)率
	金額（百万円）	金額（百万円）	(%)
損害保険事業（ペット保険）	29,315	32,389	10.5
損害保険（アニコム損害保険㈱）	29,315	32,389	10.5
（うち正味収入保険料）	28,787	31,674	10.0
ペット向けインターネットサービス事業	1,094	1,158	5.8
動物病院運営事業	1,162	1,221	5.1
健康イノベーション事業	152	260	70.9
その他の事業	1,178	1,369	16.3
動物病院支援	172	189	9.6
保険代理店	6	10	70.1
遺伝子検査等	161	167	3.9
その他	837	1,002	19.6
合計	32,903	36,400	10.6

（注）当中間連結会計期間より、従来「ペット向けインターネットサービス事業」及び「その他」に含まれていた「動物病院運営事業」及び「健康イノベーション事業」について質的な重要性が高まったため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。

<損害保険事業>

損害保険事業の経常収益は、前年同期比3,074百万円増(同10.5%増)の32,389百万円となりました。

アニコム損害保険株式会社では、重点施策と位置付けている「ペット保険の更なる収益力向上」に向け、堅調なペット飼育需要の継続に加え、販売チャネルの営業活動強化の様々な取組みや他社からの契約移管により、新規契約件数は138,503件(前年同期比17.8%増)、保有契約件数は1,347,456件(前期末から59,533件の増加・同4.6%増)と堅調な伸長を継続しています。

E/I損害率^(注1)については、ペットの平均寿命の伸長やどうぶつ医療の高度化、インフレの影響による診療費の高止まりなどにより、62.6%と前年同期比で1.2pt上昇しました。また、既経過保険料ベース事業費率^(注2)は、他社契約移管コストの発生によって、34.6%と前年同期比で2.5pt上昇しました。この結果、両者を合算したコンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)は前年同期比で3.7pt上昇し97.2%となりました。

注1) E/I損害率：発生ベースでの損害率。

(正味支払保険金+支払備金増減額+損害調査費)÷既経過保険料にて算出。

注2) 既経過保険料ベース事業費率：発生ベースの保険料(既経過保険料)に対する発生ベースの事業費率。

損保事業費÷既経過保険料にて算出。

<ペット向けインターネットサービス事業>

ペット向けインターネットサービス事業の経常収益は、前年同期比63百万円増(同5.8%増)の1,158百万円となりました。

株式会社シムネットにおいては、犬や猫を販売するブリーダーと飼い主のマッチングサイトや保護された犬や猫の譲渡の機会を提供する里親マッチングサイトの運営等の「ペット向けインターネットサービス事業」を行っております。同社が運営する「みんなのブリーダー」は日本最大のブリーダーマッチングサイトであり、このプラットフォームを活用することで、当社グループの中核事業である損害保険事業のペット保険契約件数の増加に向けた効果的・効率的な施策につなげるとともに、ブリーダーサポートサービスの拡大につなげています。

<動物病院運営事業>

動物病院運営事業の経常収益は、前年同期比58百万円増(同5.1%増)の1,221百万円となりました。

アニコム先進医療研究所株式会社においては、どうぶつ医療分野における基礎研究の推進、科学的根拠に基づく診療方法の確立及び、予防・先進医療の開発に向けた研究・臨床・開発等を行うとともに、地域獣医療のサポートとしての病院承継を行っております。同社では、自ら動物病院を運営し、予防から1次・2次診療を展開しているところ、その過程で得られた医療データ等を活用し、次世代の予防法の確立を目指しています。

<健康イノベーション事業>

健康イノベーション事業の経常収益は、前年同期比108百万円増(同70.9%増)の260百万円となりました。

主にアニコム パフェ株式会社において、各検査をキーにした口腔・腸内ケア商材の開発及び販売を行っております。同社では、歯周病予防のためにMA-TTMを利用した歯みがきジェル「CRYSTAL JOY」や、腸内フローラの多様性を高める「7Days Food」、愛犬・愛猫の食事を美味しく健康にサポートする「CARE PUREE」の販売を開始するとともに販路の開拓を進め、日々の口腔・腸内ケアによって病気の予防を目指しています。

<その他の事業>

その他の事業の経常収益は、前年同期比191百万円増(同16.3%増)の1,369百万円となりました。

・動物病院支援事業

アニコム パフェ株式会社において、動物病院経営に必要な顧客管理、レセプト精算、診療明細書の発行等の機能を有しているカルテ管理システム「アニコムレセプター」の開発、販売、保守等を行っており、当中間連結会計期間における経常収益は189百万円(同9.6%増)となりました。

・保険代理店事業

アニコム パフェ株式会社において、ペット関連の取引先企業等に対して損害保険及び生命保険の募集・販売を行っており、当中間連結会計期間における経常収益は10百万円(同70.1%増)となりました。

・遺伝子検査等事業

アニコム パフェ株式会社において、親と子の遺伝子検査を通じてペットが生まれてくる際の遺伝病を避けるべく、ペットショップ及びブリーダー向けに遺伝子検査の販売を行っております。加えて、どうぶつの健康チェックを目的とした腸内フローラ測定サービス(どうぶつ健活)の販売等を行っておりますが、遺伝子検査の検体受注の減少等により、当中間連結会計期間における経常収益は167百万円(同3.9%増)となりました。

・その他事業

上記のほかに、アニコム パフェ株式会社において、ペットの健康に関する24時間365日の電話相談サービス「アニコム24」の提供、ペットを失った悲しみ(ペットロス)を支えるWEBサイト「アニコムメモリアル」の運営、動物関係者に特化した人材紹介サイト「アニジョブ」の運営等を行っており、フローエンス株式会社において、ブリーディング事業を行っております。その結果、その他事業全体としての経常収益は1,002百万円(同19.6%増)となっています。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2,178百万円増加して74,673百万円となりました。その主な要因は、有形固定資産の増加3,863百万円、現金及び預貯金の減少2,367百万円と有価証券の増加1,012百万円であります。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ1,934百万円増加して46,362百万円となりました。その主な要因は、社債の減少5,000百万円、借入金の増加4,995百万円、保険契約の増加に伴う保険契約準備金の増加470百万円とその他の負債の増加1,405百万円であります。

純資産の部は、前連結会計年度末に比べ244百万円増加して28,311百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金の増加792百万円と自己株式の取得による999百万円の減少であります。

② キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益が1,037百万円減少したこと等により2,005百万円の収入となり、前中間連結会計期間に比べると510百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、4,061百万円の支出となりました。主に有形固定資産の取得による支出であり、前中間連結会計期間に比べると2,010百万円の支出の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前中間連結会計期間では2,051百万円の支出、当中間連結会計期間では自己株式の取得等により1,661百万円の支出となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より3,717百万円減少し、18,892百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想のうち、連結業績予想につきましては、2025年5月9日に公表致しました決算短信中の「2026年3月期の連結業績予想」をご参照ください。なお、今後の業績推移により修正の必要が生じた場合には速やかに公表致します。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
現金及び預貯金	26,460	24,092
有価証券	29,430	30,443
貸付金	44	-
有形固定資産	3,070	6,933
無形固定資産	3,944	3,820
その他資産	7,837	7,994
共同保険貸	1	2
再保険貸	6	12
未収金	3,672	3,733
未収保険料	729	746
仮払金	836	780
その他の資産	2,591	2,718
繰延税金資産	1,764	1,400
貸倒引当金	△57	△11
資産の部合計	72,494	74,673
負債の部		
保険契約準備金	26,774	27,245
支払備金	3,532	3,753
責任準備金	23,242	23,491
社債	10,000	5,000
その他負債	7,152	13,552
借入金	115	5,110
その他の負債	7,037	8,442
賞与引当金	325	375
特別法上の準備金	175	188
価格変動準備金	175	188
負債の部合計	44,427	46,362
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,202	8,202
資本剰余金	7,272	7,272
利益剰余金	14,660	15,452
自己株式	△2	△1,002
株主資本合計	30,132	29,925
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,916	△1,465
その他の包括利益累計額合計	△1,916	△1,465
新株予約権	△149	△149
純資産の部合計	28,066	28,311
負債及び純資産の部合計	72,494	74,673

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
経常収益	32,903	36,400
保険引受収益	28,787	31,674
(うち正味収入保険料)	28,787	31,674
資産運用収益	516	663
(うち利息及び配当金収入)	375	436
(うち有価証券売却益)	141	226
その他経常収益	3,599	4,063
経常費用	29,773	34,301
保険引受費用	19,930	22,291
(うち正味支払保険金)	16,507	18,392
(うち損害調査費)	566	583
(うち諸手数料及び集金費)	2,665	2,845
(うち支払備金繰入額)	164	221
(うち責任準備金繰入額)	26	249
資産運用費用	2	0
営業費及び一般管理費	8,478	10,449
その他経常費用	1,361	1,560
(うち支払利息)	8	36
経常利益	3,130	2,098
特別利益	1	-
固定資産処分益	1	-
特別損失	13	17
固定資産処分損	0	4
特別法上の準備金繰入額	13	13
価格変動準備金繰入額	13	13
税金等調整前中間純利益	3,118	2,081
法人税及び住民税等	739	472
法人税等調整額	242	179
法人税等合計	981	651
中間純利益	2,136	1,429
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△43	-
親会社株主に帰属する中間純利益	2,180	1,429

中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	2,136	1,429
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△190	451
その他の包括利益合計	△190	451
中間包括利益	1,946	1,881
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,989	1,881
非支配株主に係る中間包括利益	△43	-

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位: 百万円)	
	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	3,118	2,081
減価償却費	406	411
のれん償却額	124	129
支払備金の増減額(△は減少)	164	221
責任準備金の増減額(△は減少)	26	249
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△45
賞与引当金の増減額(△は減少)	33	50
価格変動準備金の増減額(△は減少)	13	13
利息及び配当金収入	△375	△436
有価証券関係損益(△は益)	△138	△226
持分法による投資損益(△は益)	-	47
支払利息	8	36
有形固定資産関係損益(△は益)	△0	4
その他資産(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は増加)	△1,506	△243
その他負債(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は減少)	186	233
その他	34	27
小計	2,094	2,553
利息及び配当金の受取額	367	423
利息の支払額	△8	△45
法人税等の支払額	△957	△925
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,495	2,005
投資活動によるキャッシュ・フロー		
預貯金の純増減額(△は増加)	-	△1,350
有価証券の取得による支出	△5,393	△3,663
有価証券の売却・償還による収入	4,070	3,239
貸付金の回収による収入	-	44
資産運用活動計	△1,323	△1,729
営業活動及び資産運用活動計	171	275
有形固定資産の取得による支出	△237	△2,031
有形固定資産の売却による収入	1	-
無形固定資産の取得による支出	△366	△251
関係会社株式の取得による支出	-	△47
事業譲受による支出	△114	-
その他	△11	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,050	△4,061
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の償還による支出	-	△5,000
借入れによる収入	-	5,000
借入金の返済による支出	-	△4
リース債務の返済による支出	△3	△5
配当金の支払額	△438	△635
自己株式の取得による支出	△1,609	△1,016
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,051	△1,661
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,607	△3,717
現金及び現金同等物の期首残高	21,029	22,610
現金及び現金同等物の中間期末残高	18,421	18,892

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	損害保険 事業	ペット向け インターネット サービス 事業	動物病院 運営事業	健康イノ ベーション 事業	計				
外部顧客への経常収益	29,315	1,094	1,162	152	31,725	1,178	32,903	—	32,903
セグメント間の内部 経常収益又は振替高	159	271	5	0	437	102	539	△539	—
計	29,475	1,365	1,168	153	32,162	1,280	33,443	△539	32,903
セグメント利益又は 損失(△)	3,451	188	72	△89	3,623	△492	3,130	—	3,130
(参考) のれん償却前セグメン ト利益又は損失(△)	3,451	255	108	△89	3,725	△471	3,254	—	3,254

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物病院支援事業、遺伝子検査事業等を含んでおります。

2. 調整額は、セグメント間取引の消去額です。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、中間連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

(単位: 百万円)

	損害保険事 業	ペット向けイ ンターネット サービス事業	動物病院運営 事業	健康イノベー ション事業	その他	全社・消去	合計
当中間期償却額	—	66	35	—	21	—	124
当中間期末残高	—	1,404	423	—	624	—	2,452

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	損害保険 事業	ペット向け インターネット サービス事業	動物病院 運営事業	健康イノ ベーション事業	計				
外部顧客への経常収益	32,389	1,158	1,221	260	35,030	1,369	36,400	—	36,400
セグメント間の内部 経常収益又は振替高	160	120	8	45	335	117	452	△452	—
計	32,550	1,278	1,230	306	35,365	1,487	36,852	△452	36,400
セグメント利益又は 損失(△)	2,550	104	△108	△148	2,397	△299	2,098	—	2,098
(参考) のれん償却前セグメン ト利益又は損失(△)	2,550	171	△67	△148	2,505	△277	2,227	—	2,227

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物病院支援事業、遺伝子検査事業等を含んでおります。

2. 調整額は、セグメント間取引の消去額です。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、中間連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

(単位：百万円)

	損害保険事 業	ペット向けイ ンターネット サービス事業	動物病院運営 事業	健康イノベー ション事業	その他	全社・消去	合計
当中間期償却額	—	66	40	—	21	—	129
当中間期末残高	—	1,270	442	—	581	—	2,293

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、従来「ペット向けインターネットサービス事業」及び「その他」に含まれていた「動物病院運営事業」及び「健康イノベーション事業」について質的な重要性が高まったため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. 補足情報

（1）2026年3月期 第2四半期（中間期）損益状況

（単位：百万円）

区分		前中間連結会計期間 (自2024年4月1日 至2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自2025年4月1日 至2025年9月30日)	比較増減	増減率 (%)
経常損益	保険引受収益	28,787	31,674	2,886	10.0
	（うち正味収入保険料）	(28,787)	(31,674)	(2,886)	(10.0)
	保険引受費用	19,930	22,291	2,360	11.8
	（うち正味支払保険金）	(16,507)	(18,392)	(1,884)	(11.4)
	（うち損害調査費）	(566)	(583)	(16)	(3.0)
	（うち諸手数料及び集金費）	(2,665)	(2,845)	(180)	(6.8)
	（うち支払備金繰入額）	(164)	(221)	(56)	(34.1)
	（うち責任準備金繰入額）	(26)	(249)	(223)	(854.0)
	資産運用収益	516	663	146	28.3
	（うち利息及び配当金収入）	(375)	(436)	(60)	(16.2)
	（うち有価証券売却益）	(141)	(226)	(85)	(60.5)
	資産運用費用	2	0	△2	△90.0
	営業費及び一般管理費	8,478	10,449	1,970	23.2
特別損益	その他経常損益	2,237	2,502	264	11.8
	経常利益	3,130	2,098	△1,031	△33.0
	特別利益	1	—	△1	△100.0
特別損益	特別損失	13	17	3	28.7
	特別損益	△12	△17	△5	—
税金等調整前中間純利益		3,118	2,081	△1,037	△33.3
法人税及び住民税等		739	472	△266	△36.1
法人税等調整額		242	179	△62	△26.0
法人税等合計		981	651	△329	△33.6
親会社株主に帰属する中間純利益		2,180	1,429	△750	△34.4

(2) 種目別保険料・保険金

アニコム損害保険株式会社における保険引受の実績は以下のとおりであります。

① 元受正味保険料(含む収入積立保険料)

区分	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)			当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同期 増減(△) 率(%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同期 増減(△) 率(%)
ペット保険	28,778	100.0	7.8	31,648	100.0	10.0
合計	28,778	100.0	7.8	31,648	100.0	10.0
(うち収入積立保険料)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)

(注) 1. 元受正味保険料(含む収入積立保険料)とは、元受保険料から元受解約返戻金及び元受その他返戻金を控除したものであります。(積立型保険の積立保険料を含む)

2. 諸数値はセグメント間の内部取引相殺後の金額であります。

② 正味収入保険料

区分	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)			当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同期 増減(△) 率(%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同期 増減(△) 率(%)
ペット保険	28,787	100.0	7.8	31,674	100.0	10.0
合計	28,787	100.0	7.8	31,674	100.0	10.0

(注) 1. 諸数値はセグメント間の内部取引相殺後の金額であります。

③ 正味支払保険金

区分	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)			当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同期 増減(△) 率(%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年同期 増減(△) 率(%)
ペット保険	16,507	100.0	9.5	18,392	100.0	11.4
合計	16,507	100.0	9.5	18,392	100.0	11.4

(注) 1. 諸数値はセグメント間の内部取引相殺後の金額であります。

(3) 有価証券関係

企業集団の事業の運営において重要なものであり、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

1. 満期保有目的の債券

I 前連結会計年度(2025年3月31日)

種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額(百万円)
公社債			
地方債	2,000	1,920	△79
社債	2,400	2,321	△78
合計	4,400	4,242	△157

II 当中間連結会計期間(2025年9月30日)

種類	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額(百万円)
公社債			
国債	499	499	0
地方債	2,500	2,408	△91
社債	2,600	2,511	△88
合計	5,599	5,419	△179

2. その他有価証券

I 前連結会計年度(2025年3月31日)

種類	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	1,224	1,558	333
公社債			
地方債	2,600	2,488	△111
社債	2,100	2,028	△71
その他	20,601	17,754	△2,847
合計	26,526	23,829	△2,697

(注) 市場価格のない株式等及び組合出資金は、上表に含めておりません。

II 当中間連結会計期間(2025年9月30日)

種類	取得原価(百万円)	中間連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	1,021	1,467	446
公社債			
地方債	2,900	2,774	△125
社債	2,400	2,316	△83
その他	19,328	17,030	△2,298
合計	25,650	23,588	△2,061

(注) 市場価格のない株式等及び組合出資金は、上表に含めておりません。

(4) ソルベンシー・マージン比率

アニコム損害保険株式会社の「ソルベンシー・マージン比率」については、以下のとおりであります。

	前事業年度末 (2025年3月31日) (百万円)	当中間会計期間末 (2025年9月30日) (百万円)
(A) ソルベンシー・マージン総額	27,559	29,273
資本金又は基金等	23,501	24,694
価格変動準備金	175	188
危険準備金	—	—
異常危険準備金	1,895	1,021
一般貸倒引当金	3	3
その他有価証券の評価差額(税効果控除前)	△2,697	△2,061
土地の含み損益	108	197
払戻積立金超過額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
払戻積立金超過額及び負債性資本調達手段等のうち、 マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	4,572	5,229
(B) リスクの合計額 $\sqrt{\{(R1 + R2)^2 + (R3 + R4)^2\} + R5 + R6}$	15,965	16,656
一般保険リスク(R1)	15,482	16,186
第三分野保険の保険リスク(R2)	—	—
予定利率リスク(R3)	—	—
資産運用リスク(R4)	2,031	1,878
経営管理リスク(R5)	350	361
巨大災害リスク(R6)	—	—
(C) 単体ソルベンシー・マージン比率(%) $[(A) \div \{(B) \times 1 \div 2\}] \times 100$	345.2	351.5

(注) 上記の金額及び数値は、保険業法施行規則第86条及び第87条並びに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しております。

<ソルベンシー・マージン比率>

- ・損害保険会社は、保険事故発生の際の保険金支払や積立型保険の満期返戻金支払等に備えて準備金を積み立てておりますが、巨大災害の発生や、損害保険会社が保有する資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。
- ・この「通常の予測を超える危険」を示す「リスクの合計額」(上表の(B))に対する「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」(すなわちソルベンシー・マージン総額：上表の(A))の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたのが、「単体ソルベンシー・マージン比率」(上表の(C))であります。
- ・「通常の予測を超える危険」とは、次に示す各種の危険の総額をいいます。
 - ① 保険引受上の危険 : 保険事故の発生率等が通常の予測を超えることにより発生し得る危険
 (一般保険リスク) (巨大災害に係る危険を除く)
 (第三分野保険の保険リスク)
 - ② 予定利率上の危険 : 積立型保険について、実際の運用利回りが保険料算出時に予定した利回りを下回ることにより発生し得る危険
 (予定利率リスク)
 - ③ 資産運用上の危険 : 保有する有価証券等の資産の価格が通常の予測を超えて変動することにより発生し得る危険等
 (資産運用リスク)
 - ④ 経営管理上の危険 : 業務の運営上通常の予測を超えて発生し得る危険で上記①～③及び⑤以外のもの
 (経営管理リスク)
 - ⑤ 巨大災害に係る危険 : 通常の予測を超える巨大災害(関東大震災や伊勢湾台風相当)により発生し得る危険
 (巨大災害リスク)
- ・「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」(ソルベンシー・マージン総額)とは、損害保険会社の純資産(社外流出予定額等を除く)、諸準備金(価格変動準備金・異常危険準備金等)、土地の含み益の一部等の総額であります。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用する客観的な指標のひとつであります。その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。